

## 杉浦日向子の視点 ～江戸へようこそ①～

## 杉浦日向子ストーリー

江東区深川江戸資料館

江戸風俗研究家、漫画家、文筆家として活躍し、NHKの「コメディーお江戸でござる」でもお馴染みの杉浦日向子さんが亡くなられて、昨年で 13 年になります。46 歳の早過ぎる死でした。ご存命であれば、昨年の 11 月 30 日に還暦を迎えられていました。

亡くなられた後も本が出版され、作品の映画化や海外での出版が続く杉浦日向子さんの人と作品を 6 回にわたって紹介していきます。

## 1. 生い立ち

杉浦日向子は、昭和 33 年（1958）港区芝で生まれました。親の家業は京橋の呉服屋で、5 歳年上の兄は写真家の鈴木雅也。新宿の長屋で暮らしていました。

幼少期から、歌舞伎・寄席・相撲などを観ていたことや、呉服屋に生まれて、着物に親しんでいたことは、後の仕事につながっているようです。

幼稚園に入るまでは泣き虫でしたが、その後、変身。「お絵かき塾」に通う一方、穴ほりと機械いじり、プラモデル好きなどちょっと変わった女の子でした。中学では剣道部に所属していました。

この頃から兄の影響もあり、ロックや映画などのサブカルチャーに興味を持ち始めます。ロックは、キング・クリムゾン、ザ・バンド、映画は、小津安二郎などが好きでした。

昭和 48 年（1973）日本大学鶴ヶ丘高校に入学。バウハウス、デュシャン、ジャスパー・ジョーンズなどの現代美術にかぶれる一方、数学や物理が好きな理系女子でした。

機械好きが高じて、商船大学の機関科に入りたいと思っていましたが女子は受付けていなかったため断念。昭和 51 年（1976）日本大学芸術学部美術学科に入学するも、魅力を感じず 1 年で中退してしまいます。

その後、父親の呉服商を手伝いながら手描き友禅



『考証 江戸の再発見』稲垣史生  
平成 2 年（1990）河出文庫

の勉強をしたり、機械好きを生かして秋葉原のオーディオ専門店でアルバイトをしたりしていました。ただ、中退の時に両親と交わした、22 歳までに自分の生きる道を決めるという約束の期限が迫っていました。

2. 時代考証家 いながきしせい 稲垣史生の弟子として

色々と考え抜いた杉浦日向子は、独学でお金がかからず取れる資格がないかと考えて、朝日カルチャーセンターの稲垣史生の時代考証の教室に通い始めます。

稲垣史生は明治 45 年（1912）生まれ。NHK大河ドラマの「竜馬がゆく」「もみ樅の木は残った」など多くの時代劇の時代考証を担当。『歴史考証事典』『考証 江戸の再発見』など著書も多数。また、その厳しい時代劇評はテレビ・映画関係者を恐れさせていました。

あまり人がやっていないという穴狙いで始めた杉

浦でしたが、持ち前の熱心さで、稲垣の内弟子のような形となります。

辛口で知られる稲垣に「基礎ができた」「この人の描くものなら責任をとりますよ」とまで言われるように成長しました。

### 3. 漫画家として

時代考証家をめざした杉浦日向子でしたが、15年は食えないと言われて方向転換、漫画家の道を模索します。しかし、杉浦は漫画をほとんど知らず、自分で買ったこともありませんでした。とりあえず作品を書き上げますが、内容に合う出版社がどこにもなく、たまたま青林堂の『ガロ』という雑誌が懐が深く、投稿をしたら作品が採用されました。その作品が昭和55年(1980)11月号に掲載された「<sup>つげんむろの</sup>通言室之梅」です。

『ガロ』は、昭和39年(1964)長井勝一が白土三平の作品を掲載するために創刊された漫画雑誌。当時は、前衛的な作品の発表の場となっていて、経営は苦しく、原稿料もあまり出ていませんでした。因みに、同時期にデビューしたのが『孤独のグルメ』の原作者の久住昌之で二人は後々まで親交がありました。



『お江戸でござる』杉浦日向子監修 深笛義也構成  
平成15年(2003)ワニブックス  
平成18年(2006)新潮文庫

その後、双葉社の『漫画アクション』などにも漫画作品を書くようになり、原稿料で生活できるようになりました。

### 4. 江戸風俗研究者として

漫画家として、数々の作品を発表しながら、昭和58年(1983)頃から雑誌などに江戸に関する文章を発表しはじめます。

昭和61年(1986)には、初の江戸に関するエッセイ集『江戸へようこそ』を筑摩書房より出版します。その後、1980年代の「江戸ブーム」もあり、『大江戸観光』(筑摩書房/昭和62年)、『江戸アルキ帖』(新潮社/平成元年)、『一日江戸人』(小学館/平成10年)など、江戸に関する本を続々と発表し、その平易でわかりやすい語り口によって、多くの読者を獲得していきます。一方、平成5年(1993)には体調の問題もあり漫画家を引退し、隠居することを宣言します。

平成7年(1995)からは、NHKの「コメディーお江戸でござる」の江戸風俗解説のコーナーを担当。江戸風俗研究者としての名声を確立します。

### 5. 石川英輔との交流

平成16年(2004)、杉浦日向子は体調を悪くし、「コメディーお江戸でござる」の最後の2回の解説を親しかった石川英輔にバトンタッチをします。

石川英輔は、昭和8年(1933年)生まれ『大江戸えねるぎー事情』『大江戸リサイクル事情』などの著書で江戸の庶民の生活を現代の視点から紹介し、杉浦も影響を受けた作家です。家が近かったことから、石川の家をよく訪ねて、酒を酌み交わしながら江戸談義をする仲でもありました。

2人は対談、トークショー、座談会などの仕事をすることも多く、平成6年(1994)には、深川江戸資料館でも対談し、その時の記録は『杉浦日向子の江戸塾』(PHP研究所/平成9年)に残されています。

(主な参考文献)

杉浦日向子著作

『私が聴いた名講義』監修 南伸坊(波乗社/1991)

『新 師弟物語』佐高信(岩波現代文庫/2012)